

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

秘

第三十八回技術會議

第三部第十二回會議々事要旨

一 審議事項

一、板用鋼片工場均熟炉への瓦斯供給に関する件

二、開 催 昭和四年三月十九日

三、出席者 別紙記載

四、議 事

(イ) 技監 先づ首題の件に關し鋼片課長の説明を求む

(ロ) 鋼片課長 現状の分塊作業にては來年度出鋼豫定の鋼塊全部の消化は不可能なるに依り板用鋼片工場の交代を増して二交代とし第四製鋼々塊を取扱ふ計畫を樹てたり、然るに斯くの如くにして第二厚板工場と關聯して三交代作業をなすことせば現状の設備に於ては第二厚板の發生炉より連續的に瓦斯の供給を受くる能はず、一交代約二時間無爲に過ごすの餘儀なきに到り不都合不埒るに付此際之が供給

を第二製鋼工場に仰ぐ事としては如何と思考す而して鋼塊處理費を一月一・〇〇〇噸とすれば一月一・二二〇噸（一日四九噸）の石炭に相當する瓦斯の供給を望む

(イ) 條鋼部長 安全數量としては月一・七〇〇噸乃至一・八〇〇噸の石炭に相當すべきものならんか

(ニ) 日高技師 第二厚板發生炉に於ては現在一日九〇噸の石炭を瓦斯化しつゝあり

(ホ) 技監 第二製鋼には該工場を縦貫せる發生炉瓦斯道の外に骸炭炉瓦斯及高炉瓦斯の混和瓦斯道の設備を有するに依り双方を考慮すべし

第二製鋼課長

一、發生炉瓦斯の供給

作業状態を全く異にする平炉と均熱炉に對し現状の儘にて瓦斯の連絡を計るは種々の點に於て双方共不利不尠るべし

二、混和瓦斯の供給

現状にては種々の不都合あり

されば本年度混和瓦斯使用擴張豫定（第三、四號均熱炉迄）を更に延長して板用鋼片に及ばしめ之を使用すること、しては如何

(ト) 鋼片課長 第二製鋼發生炉瓦斯道との連絡は水「ヴァルブ」の設置に依り容易に解決し得べし

(ニ) 條鋼部長 第二製鋼との連絡を至難とする問題が

一、混和瓦斯の量及連絡方法か 又は

二、新に瓦斯發生炉を動かすことにあるや 夫とも

三、廻道の瓦斯焼きの點なるか

若し第三項が問題なりとせば之が對策あらば可なるや、第二製鋼課長の意見を承りたし

(リ) 技監 先づ最も簡易なる解決法として第二厚板瓦斯發生炉の設備改造に關し當局者の説明を求む

(ス) 日高技師 現在の設備にては

一、操業中に完全に「灰出し」をなすこと殆ど不可能なる上

二、「ダンバー」に「コールター」附着して之を上下する事能はざるに依り發生炉一基の「灰出し」のため全炉の操業を休止するの^{止むべき}状態にあり

されば「灰出し」装置の改造は容易ならざればこは姑く措くこととし「ダンバー」を容易に上下し得る構造とせば一基宛單獨に「灰出し」をなし得べきに依り従つて連續的に瓦斯を供給する事を得

(イ) 技監 第二製鋼との連絡に關する調査研究を工作部に委託し夫迄は差當り發生炉の「ダンバー」を改造する事としては如何

(ロ) 野口技手 現在の「ダンバー」は既に三、四回の改造を経たる可成自信あるものにして更に之を改造せん事至難なり、されば此際「ダンバー」を廢して寧ろ「ヴァルブ」に改むべきならん

(ハ) 鋼板部長 焦眉の急に應ずるため現在無爲の第二製鋼發生炉若干基を利用すること、しては如何

(カ) 鋼片課長 賛成なり

(四) 第二製鋼課長 各平炉に最も接近せる北側の發生炉の割讓は當課として不利なれば多少の不便は之を忍びても寧ろ現在の發生炉瓦斯道との連絡を希望す

(ウ) 條鋼部長 右は當部としては最も望む所なり

(イ) 技監 然らば第二製鋼發生炉瓦斯道と連絡すること、し計畫を急ぐべし

夫迄は差當り第二厚板發生炉の設備を改造し焦眉の急に應ずることとすべし

出席者(七名)

野田 技監

景山 條 鋼部長

岡崎 鋼片 課長

永田 鋼板 部長

日高 技師

野口 技手

平田 第二製鋼 課長